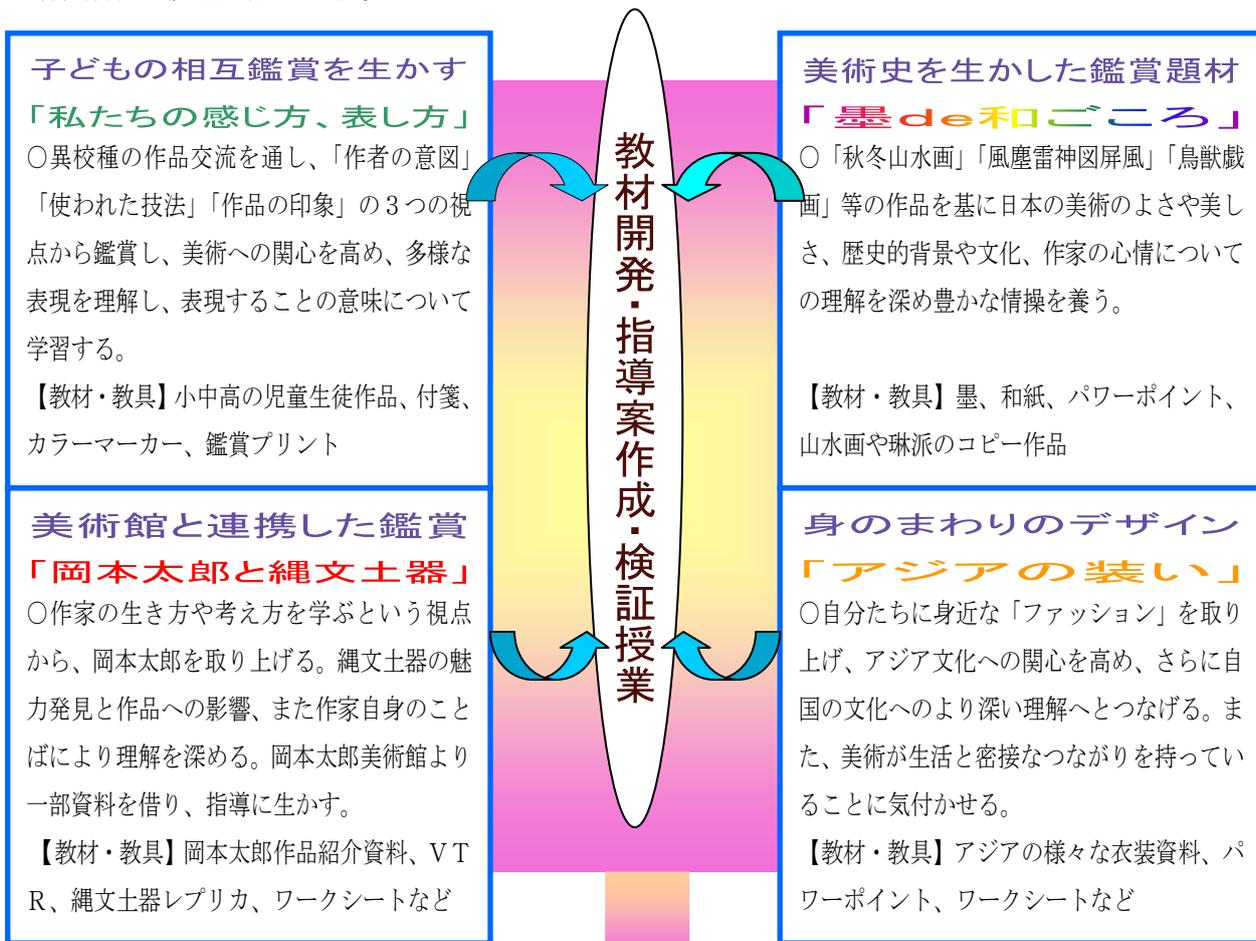


平成18年度研究テーマ

積極的な鑑賞学習の系統性

テーマの主旨 図画工作・美術・美術、工芸の大きな教科・科目の目標は、「感性を高め豊かな情操を養うこと」により「生きる力」につなげていくことにある。この達成に向けて、「鑑賞指導の充実」が一層求められている。今年度は大きな統一テーマとして、この「鑑賞」を取り上げ、教科書にある題材をきっかけとし、各校種ごとに生徒の実態に合わせた具体的な鑑賞授業の題材開発を目指す。

研究の進め方 小中高各1名ずつの4グループに分かれ、以下の4つの視点から、題材開発・指導案作成・検証授業を行う。



成果

- ・系統性を見据えた鑑賞指導の重要性、表現活動との密接な関係等について再認識できた。
- ・映像機器（パワーポイントなど）の効果的な利用により、充実した鑑賞指導が行えた。
- ・作品との感動的な出会いを演出することで、生徒の関心を高め、深く鑑賞させることができた。

課題

- ・普段から自分の思いや願いなどを率直に発表しあえる授業の雰囲気作りが必要である。
- ・他教科との連携、美術館・博物館との連携、地域の小中高との連携といった広い視点が必要である。
- ・教科書の利用方法の研究、鑑賞指導の題材開発に引き続き取り組むと共に、教員同士の情報交換を活発にする必要がある。